

# 地域とともにある学校

魅力ある学校づくりを目指して

<校訓>

樹の如く伸びよ 星の如く輝け

<学校教育目標>

自律する人間 共創する人間 錬磨する人間

2018/4/6 (金) 発行

校長通信 NO14  
北海道日高高等学校  
町田 英 謙

## 平成30年の年頭にあたり

平成30年度、新たに3名の教職員の方々をお迎えして新年度のスタートとなります。

### <転入者>

#### 近藤 伸 教頭先生

・学校運営の要である教頭には、札幌月寒高校より昇任で着任いただきました。

#### 西村元志 先生

・外国語(英語)の教員として、北海道留辺蘂高校より着任いただきました。

#### 清谷 凌 先生

・国語の教員として、札幌南陵高校の期限付から新採用で着任いただきました。

3名の教職員の皆様、本校の発展、生徒の健全な育成に向け、留任した8名の職員とともにご活躍を祈念申し上げます。

さて、日高高校は、夜間定時制(単一:全道で2校)の町立高校です。昼間は、町教委での産業学習、スキースリトコース・キャリアデザインコースに分かれて、様々な体験活動による人材育成を目指し、夜間は高校で学習し、知識・教養を深め、進路実現を図る活動を推進しています。

本校は、全国から生徒が「夢や希望」を持って入学してきており、3年生は12名在籍、うち道外が8名(神奈川3・千葉・埼玉2・群馬・栃木)、道内が4名(札幌・栗山・苫小牧・函館)、2年生は10名在籍、うち道外が7名(神奈川・岩手2・山形・岐阜・兵庫・東京)、道内が3名(札幌・日高町富川・占冠トマム)、4月10日に入学を迎える新入生は10名で、全て道外生徒(東京2・静岡2・埼玉3・神奈川1・兵庫・茨城)です。

全校生徒32名で、全校生徒が高校寮に入寮し、高校と産業学習との生活で新年度が始まります。

本校は、約8割が道外からの生徒であり、親元を離れ、日高の雄大な大自然とともに体験活動と、高校での学習活動により、人としての自立・自律を学び、同年代や地域の方々、学校と産業学習の教職員との触れ合いを通して、人格の育成できる教育機関です。

今年度は、これまで地域社会との繋がりを明確にする「コミュニティ・スクールの導入」や、本校の創立70周年記念式典・祝賀会があり、大きな節目の年でもあります。

教職員それぞれの個性を活かし、協働体制を確立することが、学校力を何倍にも高める可能性があります。私も含め、教職員(12名)で今年度、楽しいこと、嬉しいこと、辛いこと、苦勞することがあると思います。年齢構成や教職の経験年数も様々ですが、「一人で抱えず」、「一人で悩まず」、生徒や教職員の情報共有を図り、困ったときは「全員で助け合う」、嬉しいときは「全員で喜ぶ」、そんな職場にしたいと考えております。年度末に、日高高校の躍進による成果を一人ひとりが実感し、この高校で勤務できたことの喜びや感動を得ることができるように、全教職員が自覚してご協力をお願い申し上げます。

## 平成30年度 学校経営方針

平成30年度の学校要覧・教育計画に記載させていただいた学校経営方針に基づいて、教育活動の推進につきましてよろしくお願いたします。

### I 平成29年度学校経営方針 <要覧・教育計画記載>

- 1 学校教育目標
  - ・自律する人間
  - ・共創する人間
  - ・錬磨する人間
- 2 重点目標
  - (1) 自分の存在に自信をもち、生き方を模索し、将来の目標を見極め実現できる学校
  - (2) 基本的な生活習慣や規範意識を育て、社会に貢献できる資質・能力を育てる学校
  - (3) 基礎基本の内容の定着・充実を図り、さまざまな体験学習をとおして、人間性豊かな生徒を育てる学校
- 3 経営方針
  - (1) 確かな学力と実社会で生きる実践力の育成に努める
  - (2) 豊かな心と健やかな体の育成に努める
  - (3) 信頼される学校づくりと生涯学習社会の実現に努める

### II 経営方針の具体的な取組

- 1 授業 … 「基礎・基本の徹底」「時間の徹底」
  - (1) 個に応じた指導・授業の工夫改善
  - (2) 生徒に達成感・満足感を与える→喜びの醸成
  - (3) 教師の指導力に裏付けされた規範意識確立→授業の本質
- 2 躰け … 「集団生活を通し、一般社会に通用する生徒の育成」
  - (1) 基本的な生活習慣の確立→家庭・産業学習との連携した指導
  - (2) 枠組みを大切にす→統一された指導体制
  - (3) TPO、感謝・謙虚→教師の指導力
- 3 心の教育 … 生きる力「豊かな人間性」、「健康と体力」、「学び続ける姿勢」
  - (1) 自主・自立の精神や共生・共有の精神を育む→特色ある教育活動
  - (2) 生徒の能力・適性に応じた進路実現
  - (3) 地域社会と産業教育との連携協働

### III 教育実践に向けて

- 1 教育活動の積極的な実践
  - (1) 今まで培われた教育実践を踏まえ、学校行事・部活動・地域行事・産業教育との連携強化
  - (2) 全ての生徒に学力を保証する学校づくりの工夫
  - (3) 「責任起家・共通理解」「協働実践」「客観評価」「効果的改善」(plan-do-check-action)
- 2 教職員の協働参画意識
  - (1) 教職員が一丸となり、生徒への温かい愛情と、毅然とした厳しさを兼ね備えた組織
  - (2) 組織の一員として自覚と責任を持ち、「一枚岩」の体制構築
- 3 教職員の服務規律保持
  - (1) 教育公務員としての自覚(体罰、セクハラ、交通安全、飲酒運転等の信用失墜行為)